大原やすおの議会報告

福岡市議会・予算特別委員会および第3回定例会において私たち早良区に関係深い重要な課題について質問いたしました。質問及び答弁の骨子は次の通りです。

予算特別委員会

平成24年3月22日

早良区南部地域の活性化について

質問 早良区南部は高齢化等により活力が低下、その活性化へ向けて「早良みなみ塾」が開かれ自主的な取り組みが行われています。行政も連携する必要があると思うが所見をお伺いします。

また、南部は市街化調整区域など土地開発規制条例があって開発行為が難しいようです。どのような建築要件になっているのかお尋ねします。

答弁 市全体でも高齢化が見込まれる中で地域自らが課題に取り組むことは大変重要だと認識している。今後も区役所、関係部局が連携し検討を行う。

市街化調整区域は良好な自然環境及び優良な農用地等の保全に設けられたものだが例外的に開発が可能なものもある。今後も自然環境の保全などを基本に地域のまちづくりを支援する。

農業と漁業の担い手つくりについて

質問 福岡市の食文化、これを支える農業・漁業の従事者の高齢化が進んでいますが、本市の現状と課題についてお尋ねします。また、どのような担い手確保の対策を行なわれるのでしょうか。

答弁 農業では、認定農業者の育成、後継者の支援、相談窓口の充実や技術取得事業等環境づくりに努め、施設整備や機械導入に対する支援を行う。

漁業では、国や県の漁業就業支援の活用、また直販事業を支援するほか開発から販売までが一体となった6次産業の支援、漁港づくりや共同施設の支援に努める。

地域産木材の利用促進について

質問 戦後植林されたスギ・ヒノキは利用可能な木材となっていますが、外国産木材の大量輸入により国産木材の長期低迷が続き、伐採が手控えられています。地域産木材を公共施設等での利用を促進することで林業の再生が図られ、地域産業の振興と雇用確保につながると思いますが方針を伺います。

答弁 平成21年に国の森林・林業再生プランが策定され22年には公共建築物等における木材の利用促進に関する法律が施行された。これを受け24年度中に本市の方針を策定し地域産木材の利用促進に実効性のある取り組みを進めたい。

観光施策について

質問 本市の経済戦略の一つにアジアをターゲットにした集客観光施策がありますが戦略的にどのように取り組もうとしておられるのか、また観光におきましても近隣都市や九州の各都市との競争・協調が大切であると思いますがどのように行っていくのかお尋ねします。

答弁 平成24年度の経済観光文化局新設により観光推進の第一歩を踏み出す。交流人口が増えることで経済への影響は大きい。本市の歴史的な遺産や独自の文化を観光に活用できるように磨き『福岡でもう一泊』に繋がる魅力づくりを検討中。

都市間の連携は非常に重要で海外での観光開発説明会や旅行会社訪問等、共同でプロモーション活動を実施している。

第3回定例会

平成24年6月25日

自転車利用の促進と安全対策について

質問 自転車は交通渋滞の解消、温暖化対策としても重要です。道路下水道局に「自転車課」が設けられたことは評価できますが、利用者増加に伴う事故増加の抑制、走行空間の整備、駐輪場整備等、自転車の安全利用に対する取り組みをお伺いします。

答弁 自転車利用者の交通ルールの遵守・マナー向上を図るため自転車教室の開催や街頭キャンペーンの実施等に取り組み、今年度中に条例を検討している。

今年3月に実施した社会実験の結果も踏まえ、自転車レーンや駐輪場の整備等走行環境の整備に取り組んでいく。

「国際リニアコライダー」背振山系への誘致について

質問 宇宙起源の謎を解き明かすと期待されている素粒子実験施設「国際リニアコライダー」事業は、技術発展や経済効果は勿論、夢のある壮大な事業です。この事業の候補地として、背振山系が有力視されています。積極的な誘致活動を望みます。

答弁 平成19年に福岡県・佐賀県主体で誘致活動を行っているが、まだ政府レベルでの検討は行われていない。

科学技術の振興、国際貢献に寄与できることは大きな魅力であるが、不明な部分もあり、市民に情報提供しながら大学の「知」の集積などをアピールし誘致活動に取り組んでいきたい。

市職員の地域ボランティア参加促進について

質問 公務員の方、特に市職員の方が地域活動に参加し一住民として地域を見てみることも必要だと思います。行政に携わる上でとても有意義だと思いますが市職員の地域参加の状況と参加促進についてお尋ねいたします。

答弁 職員アンケートでは約4割の職員が「参加または時々参加」と答えている。地域と市役所が協働し安心・安全で住みよいまちづくりに取り組むことが重要であるから、積極的に参加できるよう各職場での理解と配慮を求めながら自発的参加を呼び掛けていきたい。

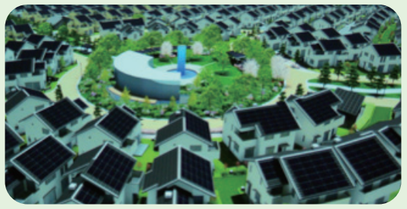
地域の方々と一緒に取り組んでいます。

大原やすお絆ネットワーク 活動報告

議員活動の一環として行政先進地を視察しています。神奈川県藤沢市の「スマートタウン構想」、千葉の「柏の葉ターバンデザインセンター」それに福岡県大木町の「くるるん循環センター」いずれもすばらしい発想、アイディアで成果を挙げています。これらを参考に福岡市、とくに早良区の発展・活性化に寄与できないものか、皆さんと共に考え協力していきたいと考えています。

藤沢市のスマートタウン構想

藤沢市は、パナソニック（旧松下電器）工場撤退地、約19㌶に地球温暖化対策の先導的モデル地区として、約千戸の住宅と商業・公園などを含む大規模なスマートタウンを開発する。太陽光発電システム（写真）と家庭用蓄電池を大規模に装備するなど、自然エネルギーにより、世代を超えて暮らせる持続可能な街づくりを目指している。平成25年度の街開きを目指している。



柏の葉国際キャンパスタウン構想

同キャンパスタウン構想は、千葉県、柏市、東大（写真）、千葉大の4者によって柏キャンパス駅周辺の区画整理地約170㌶のエリアを「環境、健康、創造、交流の街」を基本コンセプトに、国際芸術都市づくりを目指して平成20年に策定された。

その構想実現のために市民、行政、NPO、企業、大学が連携、協議して、まちづくりを考え、実践するための組織として「柏の葉アーバンデザインセンター」を平成22年に設立。同センターが事務局となって4者のフォローアップ体制を整え、空間デザインの提案や調整、様々なイベントプログラム活動が展開されている。

おおき循環センター「くるるん」

大木町は、ごみの資源化や自然エネルギーの普及など環境型の地域社会づくりを目指しいる。

おおき循環センター「くるるん」は、循環のまちづくりの拠点として、平成18年にバイオマスセンターがオープン。町内から発生する生ごみやし尿・浄化槽汚泥などを、エネルギーや肥料として地域の中で循環活用している。

これらの生ごみや、し尿・浄化槽汚泥をメタン発酵させ発電などのエネルギーとして利用。そして発酵後の消化液を有機肥料（液肥）として活用している。液肥は町内の農家の皆さんには無料配布。はじめは慎重だった方々も、その効力がわかり、今では、順番待ちとのこと。

また、平成22年から処理施設敷地内に農産物直売所、地産地消レストランを備えた、道の駅「おおき」がオープン、同町が目指す循環のまちづくりの拠点が完成した。